

市政ニュース

国際交流協会友好訪問使節団がモンゴルを訪問 市内中学生が大自然を満喫

8月5日から12日までの8日間、国際交流協会主催の友好訪問使節団がモンゴルを訪れ、現地の人々と交流を深めました。

モンゴル国とは、隔年で市から友好訪問使節団を派遣、モンゴル国から中学生を中心とした研修生を受入れており、但東地域の方や子どもたちとの交流は、16年間にわたり続いていきます。



▲10人のモンゴル友好訪問使節団 (モンゴル ウンドゥルドブ)

今回の使節団には、但東地域以外の中学生も初めて参加。国際交流協会副会長を団長とする10人がモンゴルの自然環境や人々の暮らし、文化などを体験しました。自らの生活を見つめ直したり、国際感覚が身についたり、充実した8日間となりました。

空路首都ウランバートル到着後、熱意な歓迎を受けた使節団。そこには、ホームステイ家族や昨年豊岡で受け入れた研修生の姿もありました。

3日目には、約300キロメートル離れた大草原へ移動し、自分たちでゲル(モンゴル遊牧民移動式住居)を組み立てました。ヤギの蒸し焼料理やキャンプファイヤーなど、ゲルでの生活を体験しました。

また、参加者には剣道の有段者も居り、竹刀や防具を使つての模範演技で日本文化の素晴らしさを伝えました。

木屋町小路がオープン 城崎温泉街に「和のにぎわい」を創出!!

7月26日、市の観光と地場産業の振興を図るため整備した「木屋町小路」が、城崎温泉街の中央に位置する四所神社前の広場にオープンしました。中には、獨創性あふれる魅力的なテナントゾーンがあり、个性的でおしゃれな10店舗が入っています。

午前10時からの竣工式で、中貝市長は「木屋町小路は、城崎のまちなみの調和を考へるまちづくりと、まちをあげて来訪者をもてなすという2つの伝統を引き継いだもの。より多くの人に来ていただき、満足して帰っていただきたい



▲竣工式を祝いテープカットを行う関係者

「お湯よし人よし眺めよし」を体感!!

7月28日、但東北部地域の交流・情報発信拠点として、また、地域の活性化に向け整備してきた「たんたん温泉福寿の湯」が、但東町坂野のたんたんトンネル南側にオープンしました。

午前10時30分から、関係者によるテープカットと、中貝市長による開き初めが行われ

ました。

竣工式典の施設管理引き継ぎで、中貝市長から鍵を受け取った、たんたん温泉運営管理組合理事長の福田俊文さんは「資母地区700戸すべてが出資者です。みんなで一丸となり、この温泉を中心に資母地区を元気にしていきたい」と、力強くあいさつしました。

〈主な市政の動き〉

- 〔7月〕
- 17日・国道482号整備促進期成同盟会総会
- ・コウノトリ文化館入館者数200万人達成
- 19日・全国健康むら21ネット豊岡大会
- 23日・永楽館竣工式
- 26日・木屋町小路竣工式
- ・コウノトリ但馬空港フェスティバル'08(27日)
- 27日・コウノトリのヒナ巣立ちを祝う会
- ・豊岡消防団および自主防災組織合同訓練
- 28日・たんたん温泉福寿の湯竣工式
- ・市ホームページアクセス数200万件到達
- 30日・たけの海上花火大会
- 31日・放鳥コウノトリのヒナ巣立ち記念イベント
- ・永楽館柿落大歌舞伎お練
- 〔8月〕
- 1日・永楽館柿落大歌舞伎(5日)
- ・柳まつり(2日)
- 3日・北但地域環境フォーラム
- ・九州石油バレーボール教室(4日)
- 10日・北近畿豊岡自動車道早期実現促進大会

「コウノトリ但馬空港フェスティバル'08を開催 約46,000人の航空ファンをエアショーで魅了！」

7月26日と27日の2日間、「視界良好 希望の翼 テイクオフ」をテーマにコウノトリ但馬空港フェスティバル'08が開催されました。

会場では、日本初のエアショーチーム「エアロック」が機体を回転させながら青空をキャンパスにして白煙でハートマークなどを次々に描いていくと、観衆からは大きな歓声があがっていました。家族連れを中心に市内外か

ら同空港を訪れた約46,000人の観衆は、小型航空機の編隊飛行やセスナ機の遊覧体験飛行などのスカイイベント、プロペラ旅客機「YS-11」の機内公開、但馬じばさんまつり、キャプチャーショーなどの地上イベントなど、多彩なイベントを楽しみ、夏休みの思い出を胸に刻んでいました。

なお、2日目は午前11時ごろに天候が悪化し、大雨・洪水警報も発令され、その後のイベントは中止となりました。



▲流れるように飛行する小型航空機に見入る観衆

「昨年の放鳥コウノトリのヒナ巣立ち記念日(7月31日)にイベントを開催 普天間かおりライブ「命への応援〜守りたいもの〜」

テレビ番組でコウノトリの巣立ち映像とともに流れ、話題となった楽曲「♪守りたいもの」を歌う普天間かおりさん

んを招き、昨年国内の自然界で46年ぶりにヒナが巣立った記念日の7月31日にイベントを行いました。



▲普天間かおりさん「♪守りたいもの」を熱唱(市役所前)



▲但東をテーマに研究を行った大学生による研究発表(但東市民センターホール)

最初に、但東でミニライブと大学生による学術研究発表を、続いて豊岡でステージイベントと野外ライブを開催。会場は、普天間さんの透き通

るような歌声と飾り気のないおしゃべりに魅了されました。彼女の歌は私たちに問いかけます。「あなたの『守りたいもの』は何ですか？」

中見市長の徒然日記 ⑫

頑張れ、トキ!

旅行社への豊岡の売り込みに博多に向かう新幹線の中。コウノトリ共生課から電話が入りました。「市長、佐渡にコウノトリです。有機の田んぼに降りました」「ひえー!」

今年9月25日、ついにトキが佐渡の空に帰されます。コウノトリと同じ運命をたどってきた鳥でした。コウノトリ目トキ科。コウノトリと同様、乱獲、森林伐採、農業、とりわけ農薬の使用によって絶滅に追いやられました。

種を救う最後の手段として人工飼育の開始は、コウノトリの2年後の1967年。野生での絶滅は、コウノトリの10年後の1981年。人工飼育での初めてのヒナ誕生は、コウノトリの10年後の1999年のことでした。

そしていよいよ、です。佐渡の皆さん、きつとうまくいきます。皆さんを応援する豊岡の思いを代弁するかのよう、野生のコウノトリが佐渡に舞い降りてくれました。

私の手元に、本間ひとしさんという役者の一人語り「トキが減びるとき」の台本があります。トキを食べた経験がある男が語る、トキ絶滅の物語です。農薬の使用、トキ捕獲の苦悩。「小学校にトキのはく製がございました。そのトキはちよつと首を曲げておりました。子ども心に、自分もなぜこんな目に遭ったんだろう」と、私に問いかけてくるように感じられました。「トキが減びるときは、また私たちが人間が減びるときだということでございます」。

追悼と絶望の物語。かつて本間さんの語りを聞きながら、私は何度も涙を流しました。コウノトリ放鳥で「トキにも希望が出てきました」と喜んで本間さんは、トキの放鳥を見ることなく、昨年他界されました。

受け継がれていくバトン。そんな言葉が浮かんできます。

